

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 若者が希望を持てる鶴ヶ島に (60分)</p> <p>4月13日の朝日新聞電子版は次のように日本の人口減少について報じています。</p> <p>「人口減少が止まらない。総務省が12日発表した昨年10月1日現在の人口推計では、外国人を含む総人口は12年連続で減り、日本人に限ると、福井県の人口に相当する75万人が減った。少子化を背景に今後も同様の傾向は続く。</p> <p>47都道府県のうち総人口が増えたのは東京だけだった。人口は2万8千人(0.2%)増の1403万8千人と2年ぶりに増加に転じたが、年間の出生数と死亡数を比べた「自然増減」では4万1千人減。都外からの転入などによる「社会増減」が6万9千人増だったことで補った。(中略)</p> <p>『社会増』は前年は8府県だったが北海道や宮城、東京、愛知、京都などが加わり、21都道府県に増えた。</p> <p>人口が今と同じ1億2400万人台だった93年は、経済活動の中心となる15～64歳の人は人口の69.8%を占めていたが、22年は59.4%に減った。0～14歳は2084万人から1450万人に減り、人口に占める比率は16.7%から11.6%に下がった。</p> <p>若い人が減れば、生まれる子どもの数も減り、その流れは強まっていく。一度減り始めた人口を増やすことは簡単ではない。</p> <p>1人の女性が一生の間に産む子どもの数を示した『合計特殊出生率』は2.07を上回らなければ現在の人口を維持することはできないとされる。政府は90年から少子化対策に取り組み始めたが、思うような効果は出ず、21年時点では1.30だった。」</p> <p>全国の人口動態は以上のようなようですが、鶴ヶ島市は外国人を含めて70,112人、かろうじて7万人台を維持しています。</p> <p>日本で少子化が政治課題として本格浮上したのは、1990年の「1.57ショック」からだと言われています。自民党政権は94年の「エンゼルプラン」を皮切りに次々と対策を打ち出すものの、要望が強かった現金給付など経済的支援はほとんど拡充せず、反対に雇用破壊や消費税増税など子育て世代に痛みを与える施策を相次いで実行しました。</p> <p>71～74年生まれの第2次ベビーブーム世代が20代を迎えた90年代に有効な手を打たなかったことが、日本の少子化を決定的にしたと指摘されています。</p> <p>地方自治体はこれまで、政府が立ち上げた「まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」に従い総合戦略をたてて、人口政策をすすめています。鶴ヶ島市も10年後の人口目標を設定しています。ほとんどの自治体が「自然増」では叶わないとみて「社会増」つまり他所の土地から移住してもらうためにシティブロモーションに奔走しています。しかし、問題の根源はそこにはないと思います。</p> <p>朝日新聞に掲載された東京都在住、28歳の女性からの「子どもを産んで幸せになれる？」と題した投稿を紹介します。</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>「今、日本では急速に少子化が進んでいます。このため、政府もさまざまな対策を打ち出そうとしています。しかし、たとえ今より給料が増えて、生活に余裕ができたとしても、きっと私は子どもを産まないと思います。</p> <p>子どもに何かあったら、「目を離した親が悪い」と言われ、子育てで悩むことがあっても、「自分が好きで産んだのだから自己責任だ」と突き放される。子どもを産めと言いながら、子育て世帯には冷たい。そんな空気が今の日本にはあると思います。</p> <p>実際に子どもを産めば、楽しいことも、うれしいこともあるのかもしれませんが、私はこうしたマイナスの側面の方が大きいと感じています。こんな状況で生まれてきた自分の子どもが、果たして幸せになれるのか。そんなことまで考えてしまいます。</p> <p>経済的に余裕ができれば、子どもを産みたいと思う人はたくさんいるかもしれません。しかし、私のように、さまざまな理由で子どもを産まない選択をする人もいるということ、少しでも知っていただきたいです。」</p> <p>以上が投稿の内容です。</p> <p>「子育て罰」と題した本が出ています。少子化を克服するには、ジェンダー平等、賃上げ、教育費、競争教育など、子育てにまつわる多くの課題に真摯に向き合い解決の道を探らなければなりません。</p> <p>鶴ヶ島市の少子化対策、子育て対策を実質的に前進させるために以下質問します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子化対策に取り組む基本的考え方と取組は。 (2) 少子化に歯止めがかからないと地域はどうなりますか。 (3) 地方創生人口ビジョンは達成できていますか。 (4) 1990年以降の鶴ヶ島市の出生数と出生率の推移は。 (5) なぜ出生率は低下しているのでしょうか。 (6) 30代女性の人口趨勢は。 (7) 国民希望出生率とは。 (8) 子どもを産みたいのに障害となっている社会経済的問題は。 (9) 地方政治で社会経済的問題を解決するには。 (10) 兵庫県明石市の少子化対策をどう評価しますか。 	